

I 「私たちは一人ひとり、キリストの賜物の量りにしたがって恵みを与えられました」：7。この御言葉を本気で信じると嬉しくなる。他の人と比較して、ねたんだり、高ぶったりする必要はない。素晴らしいキリストが、私達ひとりひとりに、相応しく、ちょうど良い賜物、能力を量り、与えて下さったのである。そこには間違いがない。私達一人一人に相応しい量の賜物が与えられている！感謝したい。「私に、あなたが、量って与えられた賜物、奉仕は何ですか」と祈りたい。神は、私達が、色々とやって行く中で、徐々に自分への賜物を教えて下さる。神は、私達が、母の胎内にいる時から、私達に命と能力を与えられた（詩篇139：13-16）。私達が、主を信じる前に身に着けた能力、経験にも主の御支配と計画がある。その能力を、主に捧げないまま奉仕をすると高慢になる。ですから、まず自分自身と自分に与えられた経験や能力を神に捧げ、聖別（神の栄光の為に取り分け聖められる）していただきたい。苦しみから生まれる思いやりも主の賜物。まず、自分自身を捧げ奉仕をする人は、奉仕を「してあげている」という高慢な態度ではなく、こんな罪人の頭である自分が、主の教会と伝道の為に奉仕を「させていただける」事は恵みであり、光栄な事であると感謝が絶えない。その感謝と謙遜な態度の奉仕は教会の一致を保つ。エペソ4章の全体のテーマが、教会の一致である事を心に留めたい。画一の一致ではなく、多様性の中の一致。それぞれの教会員の救われ方、賜物の違いが一致を壊す事なく、違った賜物が与えられている故に、互いに尊敬し、協力し一致を保って行く。

II 賜物（神の栄光の為に用いる主から量り与えられる能力）について教えている聖書の箇所から学びたい。ローマ12：1-8。

①賜物による奉仕の前に大切な事＝：1。神のあふれる恵みに心から感謝して自分自身を神に捧げる事。神に自分を捧げる人は、自分の栄光ではなく、神の栄光を現わす事を喜ぶ。

②：1。賜物による奉仕の前に大切な事は、心から神を礼拝する事。神は心のこもった礼拝を最も喜ばれる。常に神の恵みを感謝し神を讃えたい。

③：2。世の罪と調子を合わせたままの奉仕は喜ばれない。自分の罪を悔い改めての奉仕が祝福される。神の御心を第一にし、祈り求める。「私が何をすることを神は喜ばれますか」と祈り尋ねる。「心（思い、考え方）を新たにすることで、自分を変えていただきなさい（変えられ続けなさい）」：2。聖霊なる神は私達の思い、物事、人、自分に対する捉え方を変え神の視点で見られるようにされ、主の御姿に成長させ続けながら、賜物による奉仕をさせられる。霊的に成長し続ける時、奉仕も霊的に成長し続ける。マンネリ化（主に頼らなくてもできると思い上がる誤り）から守られる。奉仕の場が主の導きで変えられる事も恵み。

④「だれでも、思うべき限度を越えて思い上がってははいけません」：3。神は、思い上がらない人を奉仕に用いられる。謙遜な人は、自分は、自分の罪の為に滅んで当然にもかかわらず、今は、神に救われ、愛され、生かされている神の恵みをいつも感謝しながら奉仕をしている。霊的スランプに落ち込む時、神の恵みを深く覚えたい。

⑤「一つのからだには多くの器官があり、しかも、すべての器官が同じ働きはしていないように、大勢いる私たちも、キリストにあって一つのからだ（とされた教会）であり、一人ひとり互いに器官（互いに互いを必要とする存在）なのです」ローマ12：4, 5。

⑥→①から⑤の大切な真理が語られて初めて、奉仕の事が語られる。御言葉の順序にも意味がある。「私たちは、与えられた恵みに従って、異なった賜物を持っているので、もしそれが預言（神の御言葉を預かり人々に語る。現在の説教は、その一つ）であれば、その信仰（主との生ける繋がり）に応じて預言しなさい。奉仕であれば奉仕し（奉仕には数えきれない多くの奉仕がある。目に見える奉仕、見えない奉仕で、各教会は成り立っている。人数により、奉仕の内容も、主により変えられて行く）。勧めをする（原語：側へ呼ぶ、呼び寄せる、招く、勧める、訓戒する、元気づける、慰める、励ます、好意をもって話しかける、優しい言葉をかける）人であれば勧め、分け与える人は惜しまずに分け与え、指導する人は熱心に指導し（神と人に対して誠実な祈りの人は、人々から信頼され指導できる）、慈善（憐み、施し）を行う人は喜んで（相手に負い目を感じさせないで）それをしなさい」：5-8。賛美、奏楽、楽器、修理の賜物他多くある。

Ⅲ「こうして、キリストご自身が、ある人を使徒、ある人を預言者、ある人を伝道者、ある人を牧師、また教師として、お立てになったのです」エペソ4：11。現在も、キリストご自身が、ある人を伝道者、宣教師、牧師、また教師としてお立てになる。人々が救われ、そこで終わりではなく、一人一人が、神の教会に加えられ、キリストの体（教会）に霊的につながり、神の教会が建て上げられる為に、神は神のみこころにより、人々を神の働き人として召され、キリストご自身が、その人々を教会にお立てになる。色々な導きを通して。牧会者は教会員の為に祈り、牧会者は教会員の祈りの支えを必要としている。神に用いられたパウロは、こう言っている。「外から来ることのほかに、日々私に押しかかるすべての教会への心づかいがあります。だれかが弱くて、私が弱くない、ということがあるでしょうか。だれかがつまずいていて、私の心が激しく痛まないでおられましようか」Ⅱコリント11：28, 29。「私のために、私とともに力を尽くして神に祈ってください」ローマ15：30。「私のためにも祈ってください」エペソ6：19。「私たちがキリストの奥義を語れるように、祈ってください」コロサイ4：3。キリストの福音を語り、神の教会を建て上げる働きは、簡単な事ではなく、あのパウロでさえ、そして私も、心が激しく痛むものであり、教会の皆さんの祈りの支えなくしてできるものではない。悪魔は、特に、主の働き人に、強い誘惑の罠を仕掛けて来る。この二千年間、多くの働き人が、悪魔の誘惑に負け、働きから退いた。私は大丈夫と思った時点が危ない。弱い私は、教会員の祈りの支えで、42年間、毎週、御言葉からの説教、牧会伝道が支えられて来た。これからも祈り支えていただきたい！私が今も主からの使命を果たしているのは、主の恵み、奇蹟、皆さんの祈りのおかげ！

Ⅳ 励まし。

1. 神は、私達が、神の恵みに感謝し、喜んで奉仕（祈りも大切な奉仕）する姿を、見ておられ、喜んでおられる。世の終わりに、主が再臨される時、私達に、こう語られる。「よくやった。良い忠実なしもべだ。あなたは、わずかな物に忠実だったから、私はあなたにたくさんの物を任せよう。主人の喜びをともに喜んでくれ」マタイ25：21「あなたがたが、これらの私の兄弟たち、しかも最も小さい者たちのひとりにしたのは、わたしにしたのです」：40。

2. 神は、私達が、神の恵みに感謝し、神を愛し、人に仕えた愛、奉仕を覚えていて下さる。欠けの多い弱い私達を用いて下さる恵みを感謝します。